

メタバースを活用した オンライン英語教育

～未来を見据えた新教育に取り組む～

1. はじめに

各種教育行政は、他市町村同様、教育施策大綱に基づいて展開してきましたが、教育を取り巻く環境の変化等で、従来どおりの施策だけではこの先取り残されてしまうのではと考えています。特に、

- ①時代の流れが速くなり、従来の考え方だけでは後れを取ってしまう
 - ②日本のみならず世界を舞台に活躍できる人材が必要
 - ③あわせて町に生まれたことを誇りに思えるように
 - ④経済合理性だけでなく豊かな人間性が重要
- ということが、これからの時代には必要になるものと思いついたところです。

このような考えのもと、当町教育委員会では、特に重要視して進める事業を「中泊町教育イノベーションプロジェクト」として位置づけ、強力に推進することにしました。

この「中泊町教育イノベーションプロジェクト」の1つとして、メタバースを活用したオンライン英語教育を、令和6年1月に試験的にスタートしました。

中泊町イノベーションプロジェクト

①世界—Global—	②交流—Exchange—	③誇り—Pride—
小さな町、小さな日本にこだわらず、世界で活躍できる、通用する人材を育成、教育することを目的とした事業	人と人のつながりを重視し、交流することで生まれる人的ネットワークを構築・強化することを目的とした事業	町外に出て行っても、中泊町に生まれてよかった、いずれ帰ってきたい、町を誇りに思えることを目的とする事業
④未来—Future—	⑤先進—Advance—	⑥豊かさ—Well-being—
現在や過去だけを見るのではなく、未来に向けた投資を行い、将来のまちづくりの礎となる事業	既成の常識・概念や事業にとらわれず、柔軟な発想で行われる他市町村や全国に先駆けた事業	物質的な豊かさを求めるのではなく、人間らしい心の豊かさや人間性を育み、人生の幸福度を高めることを目的とした事業



20年後を見据えた新教育に取り組む！

(イノベーションプロジェクト概要1)

中泊町イノベーションプロジェクト

メタバースによるオンライン英語教育は、

「中泊町イノベーションプロジェクト」の一環

あらゆる面で未来を担う人づくり事業を行っていく！

- 町長の公約「**人づくり**」
- 時代の流れが速くなり、従来の考え方だけでは後れを取ってしまう
- 日本のみならず**世界を舞台に活躍**できる人材の必要性
- 中泊町に生まれたことを**誇り**に思えるように
- 経済合理性だけでなく**豊かな人間性**をもった人材の育成



(イノベーションプロジェクト概要2)

2. 日本の英語教育の課題

文科省の各種調査結果を見ると、現在、日本の英語教育には次のような課題があると感じます。

- ①学年が上がるにつれて英語の学習意欲が低下（特に中1進級時）
- ②自分の意見や考えを話したり書いたりすることが苦手とする生徒の割合が高い
- ③校種間（小・中・高）の接続が十分とは言えない
- ④言語活動の不足。特に発信能力（書く・話す）
- ⑤英語担当教師の英語力不足
- ⑥ALTの活用が不十分

そこで当町では、

- 今後の子供たちが生きていく世界は日本だけに限らない
- 多様性許容が世界の標準となる中での国際理解の促進
- 20年後を見据え、子供の頃から世界に通用する人材育成を行う必要性
- 国際的な人的ネットワークの形成（姉妹校提携、個

人的な交流など)

○「中泊町の未来を拓く人づくり」の実現

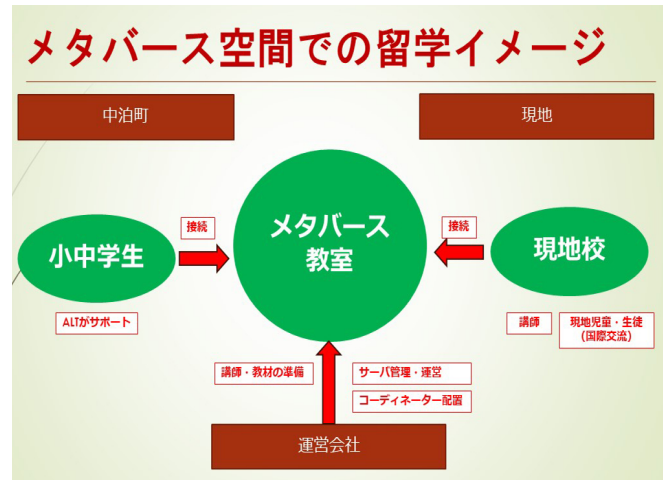
といった観点から、小学校においては、音を認識する、慣れるといった学習活動を重点に、中学校においては、聞く・話す能力の重点的な育成により、相手に対して物おじせず、意思疎通できる能力を育成することが必要と考えました。

3. 中泊町が目指す英語教育

① メタバースを活用した英語教育の概要

前述の日本の英語教育課題等をふまえ、中学校卒業までに「ネイティブスピーカーと英語でコミュニケーションができる」、「自らの意見を英語で発表できる」、「異文化を躊躇なく受け入れることができる」の3点を重点目標に設定しました。その手段として、「留学」を推奨することが近道なのは誰でも想像できますが、費用が高く、経済的格差が学力の差になってしまうことが問題です。家庭の経済力に関係なく、子供達が平等にスキルを身に付けるために、当町ではオンライン学習プラットフォーム（メタバース空間での学習）を導入し、現地と交流して「コミュニケーション（特に音声）スキ

ルの獲得」「異文化理解の促進」を目指すことにしました。



(メタバースオンライン留学概要)

その目標達成のため、オンライン英語教育運営業務をClassmate株式会社に委託し、令和5・6年度は町内の小学校1校をパイロット校とし、3・4年生は、外国語活動の中で、5・6年生は、教育課程特例校の認定により新設した【グローバル科】において当町オリジナル教材を作成・改良しつつ、年間35時間メタバースを活用した授業を計画しております。その結果を受けて、令和7年度からは、町内全小・中学校にメタバースを活用した英語教育を広げる予定としております。

3年4年総合的な学習と外国語活動、5年6年外国語科とグローバル科のカリキュラム関連イメージ												
3年	Unit 1	Unit 2	Unit 3	Unit 4	Unit 5	Unit 6	Unit 7	Unit 8	Unit 9			
総合的な学習 (国際理解 Let's Try! 使用)												
外国語活動 (メタバース英語)												
課題探究活動												
フォニックスアルファベットとルール1 (Silent e, Polite vowels 等)												
4年	Unit 1	Unit 2	Unit 3	Unit 4	Unit 5	Unit 6	Unit 7	Unit 8	Unit 9			
総合的な学習 (国際理解 Let's Try! 使用)												
外国語活動 (メタバース英語)												
課題探究活動												
フォニックスアルファベットとルール2 (Consonant Digraphs, Vowel Digraphs 等)												
5年6年	Unit 1	Unit 2	Unit 3	exp	Unit 4	Unit 5	Unit 6	exp	Unit 7	Unit 8	exp	
外国語科 (教科書使用)												
グローバル科 (メタバース英語)												
フォニックスルール3・4 (Consonant Blends, Murmuring Vowels, Other Rules 等)												
1学期 2学期 3学期												
ライブツアー				exp	発展・まとめ							

(カリキュラムのイメージ図)

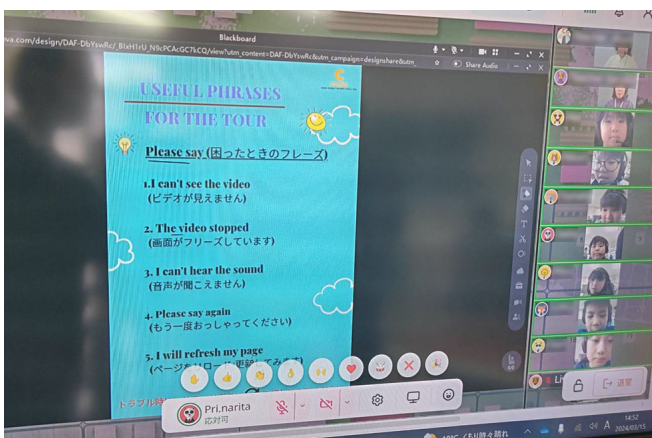
具体的な授業内容は、

- (ア)「オンライン英会話」・・・日本語補助のあるオリジナル教材を使い、全生徒ヘッドセットを使用して、マンツーマンまたはグループで学習します。フィリピン在住の講師と会話を体験できます。



(オンライン英会話の様子)

- (イ)「オンライン国際交流ライブスタディツアー」・・・町並み、人々の生活、異文化のライブ配信を見ながら日本との違いを英語でバーチャル体験できるプログラムです。現地の人達と実践的な英語での生きたライブコミュニケーションを行います。今年度は、年4回ライブスタディツアーを行う予定としており、どれだけ英語を自分の中に取り込むことができたかをアウトプットする機会として活用します。



(電子黒板を使用時のスタディツアー)

② 義務教育の先を見据えて

この教育を受けた子供たちが、その能力と交流経験

をもとに、留学等によってステップアップする機会を見越し、町とセント・ラ・サール大学 -USLS- (University of St. LA Salle)、Classmate 株式会社の三者で、国際教育の推進に関する連携協定を令和6年5月に締結しました。



(協定締結式)

協定内容は、

- ①メタバースによるオンライン英語教育及びその他英語教育全般に関すること
 - ②オンライン及びオフラインのハイブリッドによる留学に関すること
 - ③児童、生徒及び学生等の異文化交流に関すること
 - ④その他協働して取り組む事業全般に関すること
- となっています。

協定締結のため来日した大学の関係者は、パイロット校を見学し、「みなさんが今見ていたフィリピンの大学からやってきました」とあいさつ。生徒達の質問に答えるなど交流を深め、メタバースを活用したオンライン上でまた会うことを約束して帰国しました。



(見学時質問タイム)

協定を締結したセント・ラ・サール大学は、約13,000人の児童生徒学生が在籍し、広大な大学キャンパス内で小学部から大学部まで様々な学生と交流できます。ベテラン講師によるサポートで、ESL、ビジネス、IELTSなどの試験対策コースやアウトプット重視の課外授業があり、親子留学も受け入れています。

4. おわりに

日本は、これから人口が減っていく未来が予想されています。中泊町も、20年後には人口が現在の半分以上に予想されており、20年後、30年後の町を考えたとき、そこに住まうまちづくりの主役は、いまの小・中学生です。

そこで、町の未来のため、子供たちの将来のため、教育に力を入れようと考えました。先進的な事業によって、国際感覚を育成すれば、町に愛着を持ち、町に居ながらも世界を相手に事業を行う人材育成することができるのではないかと考えたからです。

また、フィリピンの大学との協定により、子供たちが大きく羽ばたける環境が整ったと認識しています。これを機に、世界を舞台にした交流を一層進め、お互いの国の子どもたちがより輝ける人生を送れるよう、メタバースを活用した英語教育を充実させて行きたいと考えています。

20年後、30年後の町がどうなっているのか、この教育を受けた子供たちがどんな活躍をしているのか、今から楽しみです。



(フィリピンの学校へのメッセージ動画)